

LogStick




電流データロガー LS200-A

取扱説明書

安全上のご注意 必ずお守りください

ご使用の前に、この「安全上のご注意」を良くお読みのうえ、正しくお使いください。

■誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、**警告**、**注意** の表示で区分して説明しています。

 警告 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの	
 使用禁止	万一異常が発生したときは、電池を抜き使用しない！ 異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに、電池を本体から抜き、修理をご依頼ください。
	煙が出ている、変なおいがするなど、異常なときは使用しない！ 異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに、周りに燃え移らない場所へ移動させ、安全を確認した後、電池を本体から抜き、修理をご依頼ください。
	破損した場合は使わない 火災や感電の原因となります。
 分解禁止	分解したり、改造しない 改造すると、ショートや発熱により、火災や感電の原因となります。
 禁止	目的外使用をしない 電流の測定以外の用途では使用しないでください。
	異物を入れない 内部に金属類や燃えやすいものなどが入ると、火災や感電の原因となります。
	子供の手の届くところに置かない 測定場所などで子供の手の届く所へは設置しないでください。飲み込んだり、けがの原因となります。
 水ぬれ禁止	水でぬらさない 火災や感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺などの屋外や、窓辺での使用は、特にご注意ください。
 正しい電池	指定の電池を使う 正しい電池を使用しない場合、火災や感電の原因となります。
 注意 誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋、家財などの損害に結びつくもの	
 設置禁止	設置時は、次のような場所には置かない <ul style="list-style-type: none"> ● 油煙や湯気の直接当たる場所 ● 直接日光の当たる場所 ● 仕様外温度となる場所 このような場所に置くと、ショートや発熱、ケースの変形などを起こして、火災や感電、故障の原因となることがあります。本機の使用可能範囲は、温度：+5～+40℃となります。
 禁止	本体の上に重いものを置かない、上にのらない バランスがくずれて倒れたり、けがや故障の原因となることがあります。
	コネクタや隙間に指や異物を入れない けがや故障の原因となります。
 ぬれ手禁止	ぬれた手で触らない 感電、故障の原因となることがあります。
 注意	経年劣化 電池端子は振動や経年劣化により接触不良になる場合があります。
	静電気に注意する 静電気による破壊を起こす可能性があります。防止するため、本機に触れる前、金属等に触れ静電気を逃がしてください。
 厳守	長期間使用しない場合は、電池を抜く 電池の液漏れにより、故障の原因となることがあります。
本製品は、人命に関わる設備や器機、および高い信頼性や安全性を必要とする設備や器機（医療関係、航空宇宙関係、輸送関係、原子力関係等）への組み込み等は考慮されておりません。これらの設備や器機で本製品を使用したことにより人身事故や財産損害が発生しても、当社は一切の責任を負いません。	

このたびは、電流データロガー 『LS200-A』 をお買い上げいただき誠に有り難うございます。
このマニュアルでは本製品の取り扱い方法や使用上の注意点について説明しております。
ご使用の前に、正しく安全にお使いいただくため、この取扱説明書を必ずお読みください。
お読みになったあとは、必要なときお読みください。

ご注意

- ・本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されております。
- ・本製品は機能追加、品質向上のため予告なく仕様を変更する場合があります。
- ・本製品の運用を理由とする損失、逸失利益など、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・本製品の記録データの消失・失敗など、取得データに対する保証はいたしかねます。

目次

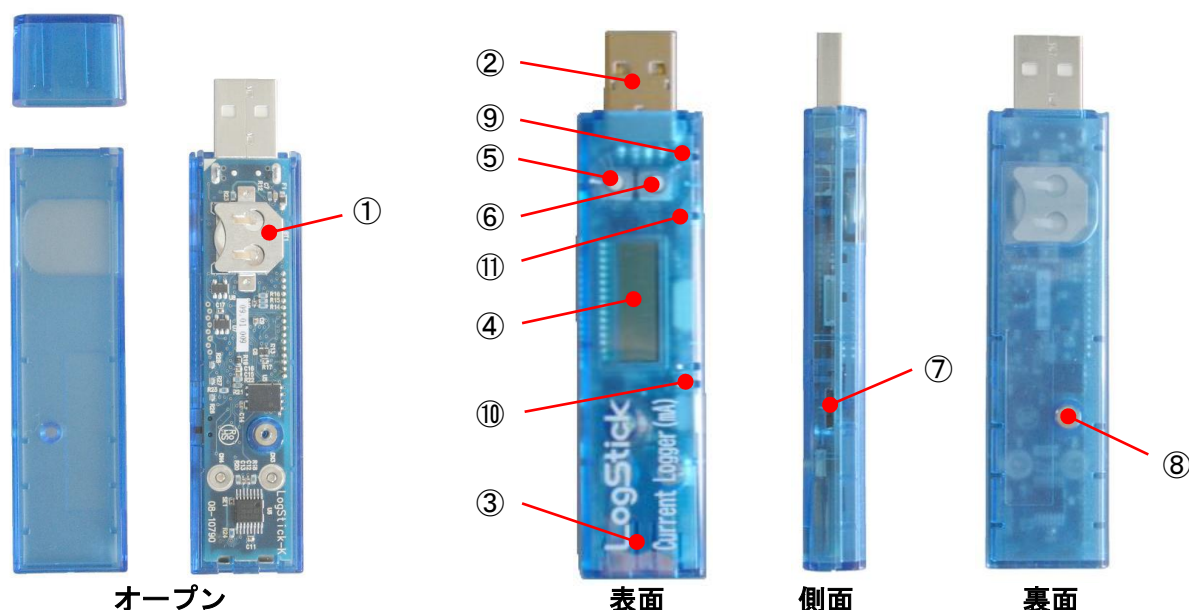
1	特徴	4
2	各部の説明	4
3	使用するための準備	5
	準備 1 電池交換	5
	手順① USBコネクタ用カバーをはずす	5
	手順② ビスをはずす	5
	手順③ カバーをはずす	5
	手順④ 古い電池を抜く	6
	手順⑤ 新しい電池を挿入する	6
	手順⑥ カバーをかぶせる	6
	手順⑦ ビスを締める	6
	準備 2 電流測定用クリップの取付	7
	準備 3 ドライバインストール	7
	準備 4 COMポート番号の取得	9
	手順① Log S t i c kをパソコンに接続	9
	手順② Log S t i c kをパソコンから取り外す	10
	手順③ Log S t i c kをパソコンに接続	11
	準備 5 アプリケーションソフトのインストール	12
4	測定時における接続方法	13
	4.1 電圧電源の負荷電流測定	13
	4.2 定電流信号源（4－20mA）を測定する場合のご注意	13
5	アプリケーションソフトによる操作方法	14
	5.1 通信	14
	5.2 各種設定	14
	5.2.1 時計設定	14
	5.2.2 認識名称設定	15
	5.2.3 記録モード設定	15
	5.3 ログ記録	16
	5.3.1 操作パネル	16
	5.3.2 記録開始	17
	5.3.3 記録終了／予約取消	18
	5.3.4 ダウンロード	19
	5.3.5 ダウンロードデータ表示（グラフ）	20
	5.3.6 ダウンロードデータ表示（一覧）	21
	5.4 リアルタイム測定	22
	5.4.1 測定方法	22
	5.4.2 自動スクロール	23
	5.5 データの保存	23
	5.5.1 保存データの閲覧	24
	5.6 保存データの読み込み	24
	5.7 データ変換	25
6	本体による操作方法	27
	6.1 スイッチの名称	27
	6.2 電流の確認	27
	6.3 設定モード	28
	6.4 時刻設定	29
	6.5 記録間隔設定	29
	6.6 記録状態設定	30
	6.7 電池電圧確認	30
	6.8 LCD常時表示	31
7	仕様	32

1 特徴

- ・ 小型サイズのため、手軽に測定（記録）することが可能です。
- ・ 一定間隔で電流を計測し記録することができます。
- ・ 低消費電力を実現することにより、ボタン電池（CR1220又はCR1225）での使用を可能とし、小型、長時間の記録が可能です。
- ・ 本体に時計機能を内蔵することにより、経過時間による電流変化など詳細なデータ解析が行えます。
- ・ 4～20mAなどで出力される各種センサーの値を任意の範囲へとスケール変換が可能です。
- ・ 小型LCDを搭載することにより、状態の確認、記録のON/OFFの設定が可能です。
- ・ パソコンのUSBインターフェースへ直接接続することが可能なため、記録したデータの転送が容易に行えます。

2 各部の説明

本体概観



各部の名称と説明

- | | |
|------------|---|
| ①電池 | : 必ず指定の電池（CR1220又はCR1225）を使用してください。 |
| ②USBコネクタ | : パソコンと接続します。 |
| ③ミニチュアコネクタ | : 電流測定用クリップを接続します。 |
| ④LCD | : 動作状態、測定電流等の確認が可能です。 |
| ⑤モードSW | : 設定、及び状態確認に使用します。 |
| ⑥設定SW | : 設定に使用します。 |
| ⑦表示確認SW | : USBコネクタ側に移動させることによりLCDにて測定電流（非記録時）又は記録点数（記録時）の確認が可能となります。 |
| ⑧電池交換用ビス | : M2×6 皿ビス |
| ⑨PC接続LED | : 緑・・・パソコンとの接続時に点灯します。 |
| ⑩記録LED | : 緑・・・測定データを記録時に点灯します。 |
| ⑪電池状態LED | : 赤・・・電池電圧の低下時に3秒間隔で点滅します。 |

注意

- ・ 電圧低下を検出すると現在のログ記録を終了します。
- ・ 電池を交換しますと交換前の設定は全て初期化されますのでログ記録を再開する場合は再度、設定を行ってください。
- ・ LCDを常時点灯しますと電池の消耗が激しくなります。通常は必ず消灯としてください。
- ・ 電流測定用クリップを接続する際は正しく差し込みできていることを確認してください。
- ・ 電流測定用クリップの取付時に、斜めより挿入しますと接続が不良となることがあります。必ず、本体とコネクタが水平になるように取り付けてください。

3 使用するための準備

本機を正しく使用するためには以下の準備が必要です。

- 準備 1 電池交換
- 準備 2 電流測定用クリップの取付
- 準備 3 ドライバインストール
- 準備 4 COMポート番号の取得
- 準備 5 アプリケーションソフトインストール

準備 1 電池交換

手順① USBコネクタ用カバーをはずす
USBコネクタ用のカバーを取り外します。



手順② ビスをはずす

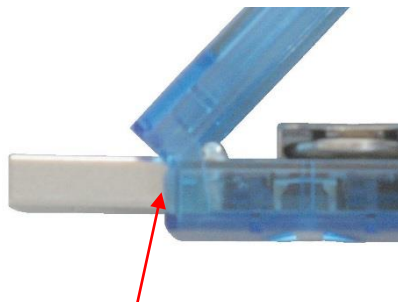
電池交換用ビスをドライバーでゆるめてビスを外してください。
ドライバーはプラスドライバーのN o. 1を使用してください。
この際ビスを紛失しない様に注意してください。



ビスをはずす

手順③ カバーをはずす

カバーは背面（電池面）より取り外します。
USBコネクタ側に「引っ掛け」がありますので、「引っ掛け」を軸に上へ持ち上げ
取り外してください。



引っ掛けを軸に
上へ取り外す

手順④ 古い電池を抜く

木製の楊枝など絶縁物で電池を押し、抜いてください



こちら側より押し出す
※必ず絶縁物を使用すること

手順⑤ 新しい電池を挿入する

+極を上にして新しい電池を挿入してください。

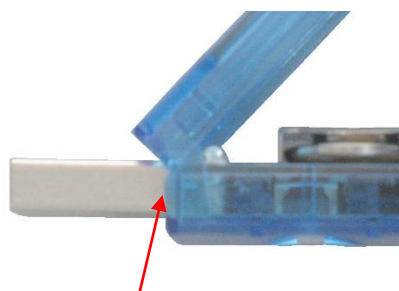
※ 電池の極性には充分注意してください。間違えますと破損の原因になります！



こちら側より電池を挿入する
※必ず指定の電池を使用すること

手順⑥ カバーをかぶせる

「引っ掛け」にカバーをはめ、「引っ掛け」を軸にしてカバーをかぶせてください。



引っ掛けにカバーをはめたのちに
そこを軸にしカバーをかぶせる

手順⑦ ビスを締める

締めすぎに注意してビスを締めてください。

注意

- ・ 本機は精密機器です。静電気による誤操作、故障にご注意ください。
本機に触れる前には金属等に触れ、必ず静電気を逃がすなどの対策を行ってください。
- ・ 購入時に入っている電池はテスト用です。
実際に使用を始める前に必ず新しい電池と交換してください。
- ・ 電池交換によるデータの消失はありませんが、あらかじめデータのダウンロードをお勧めします。

準備 2 電流測定用クリップの取付

付属の電流測定用クリップをミニチュアコネクタ部へ接続します。



尚、クリップは電流測定に使用しますが、対応は以下のようになります。

- ・ 赤 . . . +側
- ・ 黒 . . . -側

準備 3 ドライバインストール

推奨スペック

●OS	Windows 7, Windows 8/8.1, Windows10
●CPU	1GHz以上
●メモリ	512MB以上
●ハードディスク	10MB以上の空き容量
●ディスプレイサイズ	1024×768以上

本機はRS232C→USB変換チップを内蔵しており、パソコンとしてはCOMポートへの接続として認識されます。

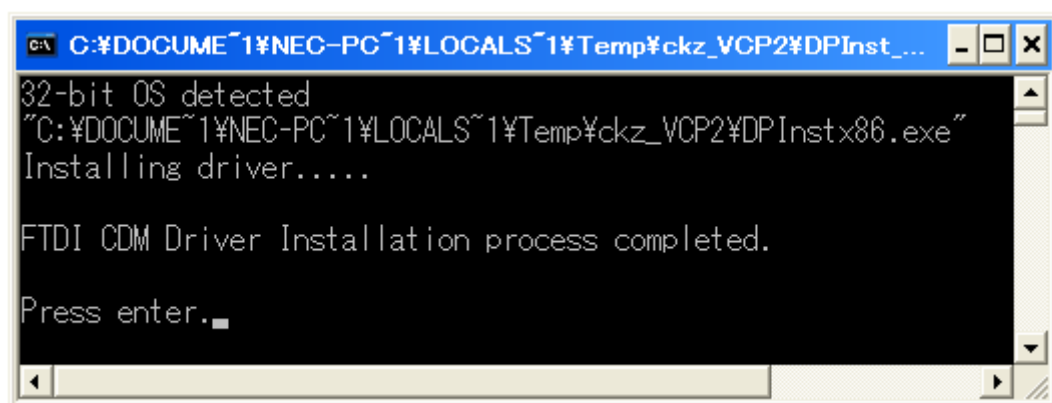
ここでは、まずRS232C→USB変換チップ用のドライバをインストールします。

アプリケーションソフトのダウンロードを行いますと、ダウンロードファイルにドライバも含まれています。

指定のwebページよりダウンロード後、インストールを行ってください。

ドライバインストールプログラムを実行

ドライバーソフトの “CDM *. *. *. exe “を実行します。（*はバージョン番号）



準備4 COMポート番号の取得

COMポート番号を取得します。

手順① LogStickをパソコンに接続

LogStickをパソコンに接続します。

接続後、デバイスマネージャ → ユニバーサル シリアル バス コントローラ
→ USB Serial Converter のプロパティを開き、詳細設定の“VCPをロードする”
にチェックをいれます。

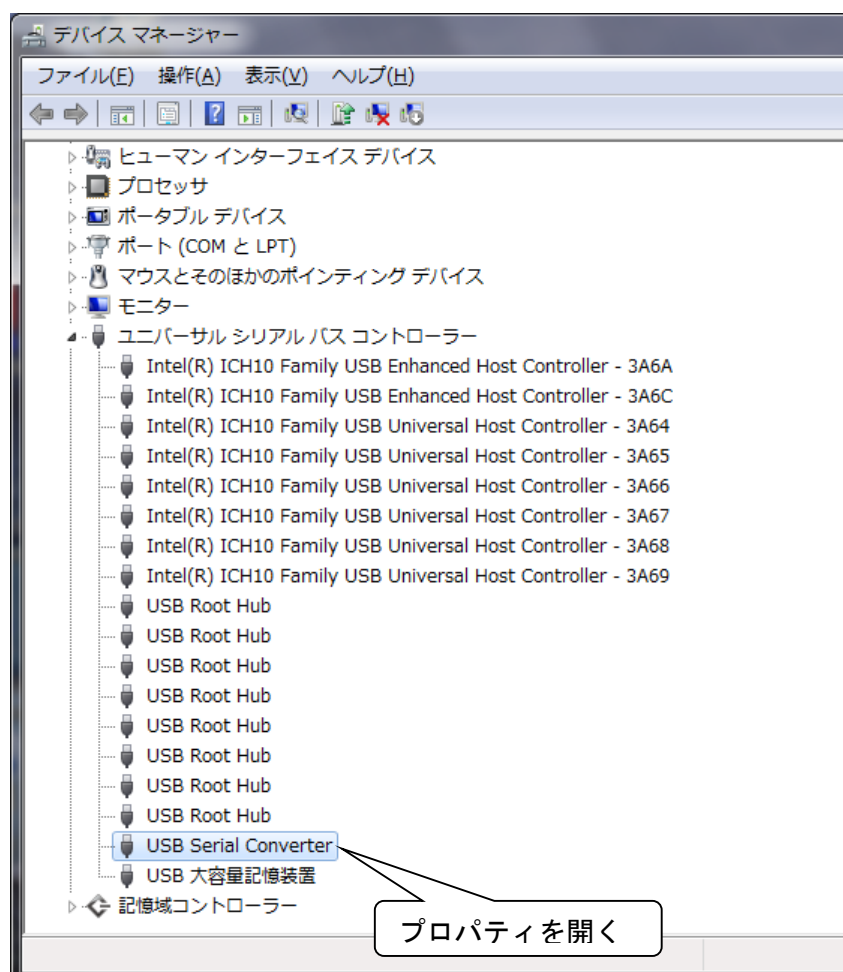
デバイスマネージャの表示方法は以下のとおりです。

・ Windows7の場合

スタートボタン → コントロールパネル→システム → デバイスマネージャ

・ Windows8／8.1、Winwows10の場合

「Windows」キーを押しながら「X」キー → デバイスマネージャ





手順② LogStickをパソコンから取り外す
LogStickを一度パソコンから抜きます。



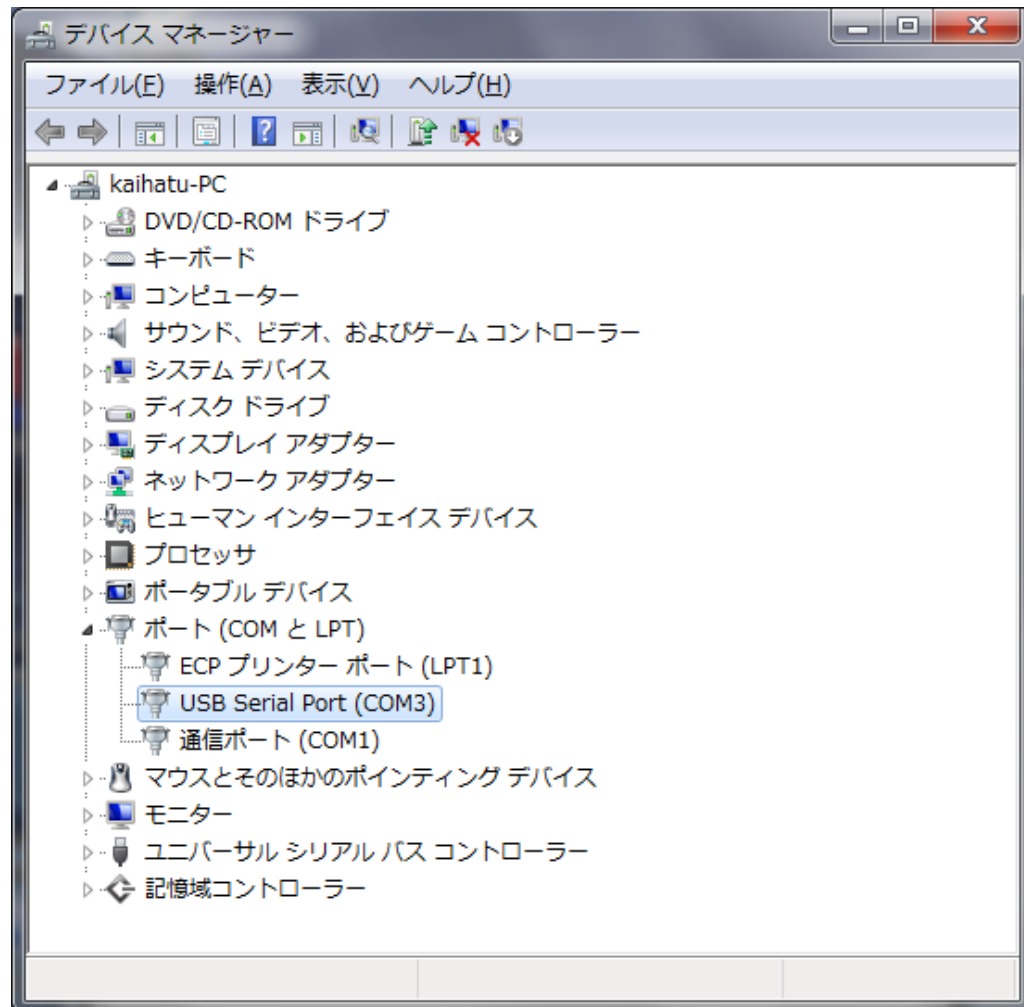


手順③ LogStickをパソコンに接続

LogStickを再度パソコンに接続します。

デバイスマネージャ → ポート (COMとLPT) に USB Serial Port(COMxx) の表示がある事を確認します。

この際ポート番号を控えておいてください。



準備5 アプリケーションソフトのインストール

LogStickの全ての操作は専用のアプリケーションソフトで行います。
ここでは専用アプリケーションソフトのインストールを行います。

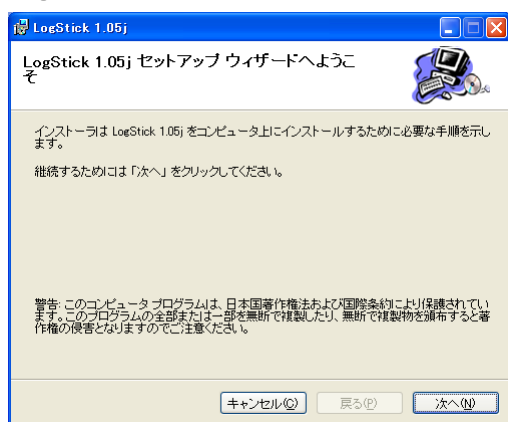
セットアッププログラムを実行

“LogStickControl_v* * *.msi” を実行します。（*はバージョン番号）
後はセットアッププログラムの指示に従いインストールして下さい。

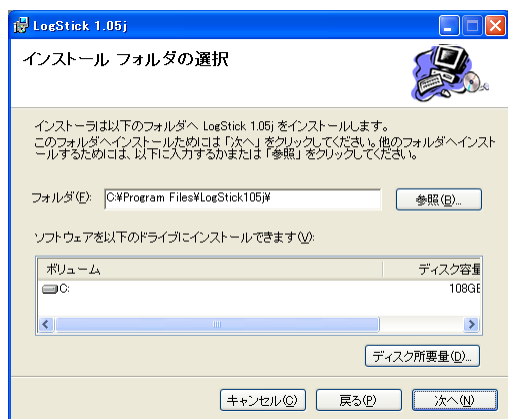
①



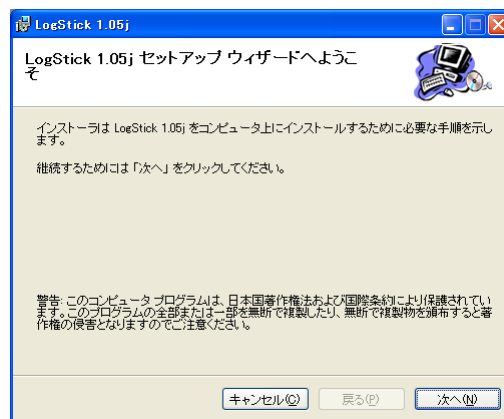
②



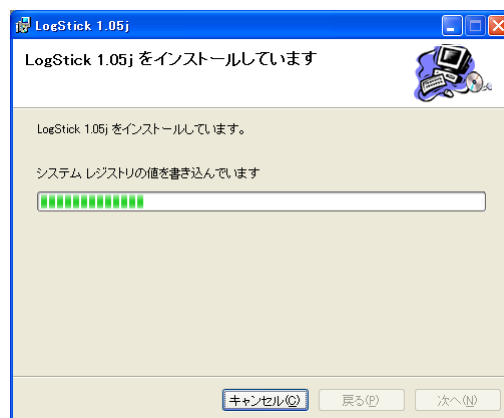
③



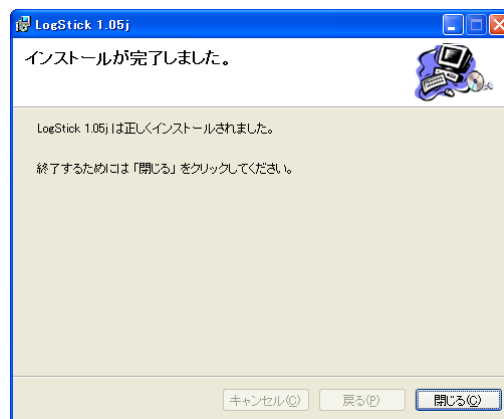
④



⑤



⑥



4 測定時における接続方法

4.1 電圧電源の負荷電流測定

下図の様にLS200-Aを電圧電源の+端子と負荷の+側の間に直列に接続して下さい。
負荷電流は測定最大値（100mA）を超えないようにご注意ください。

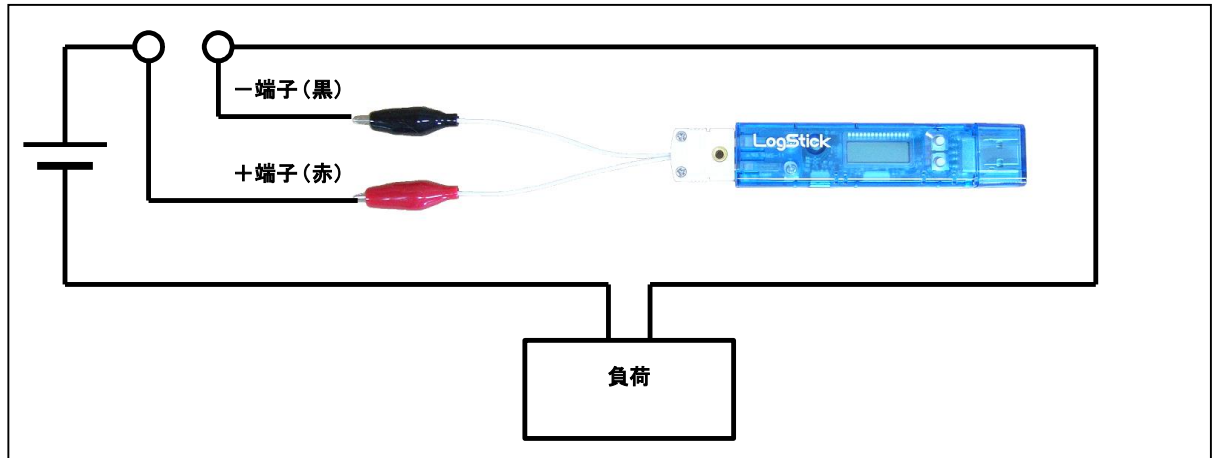


図1 電圧電源の負荷電流測定

4.2 定電流信号源（4～20mA）を測定する場合のご注意

定電流信号源（4～20mA）を測定する場合、制御電圧（解放電圧）が高い(5V以上)と本器が故障する可能性があります。

定電流信号源（4～20mA）を測定する場合、下図の様に保護抵抗を追加してください。

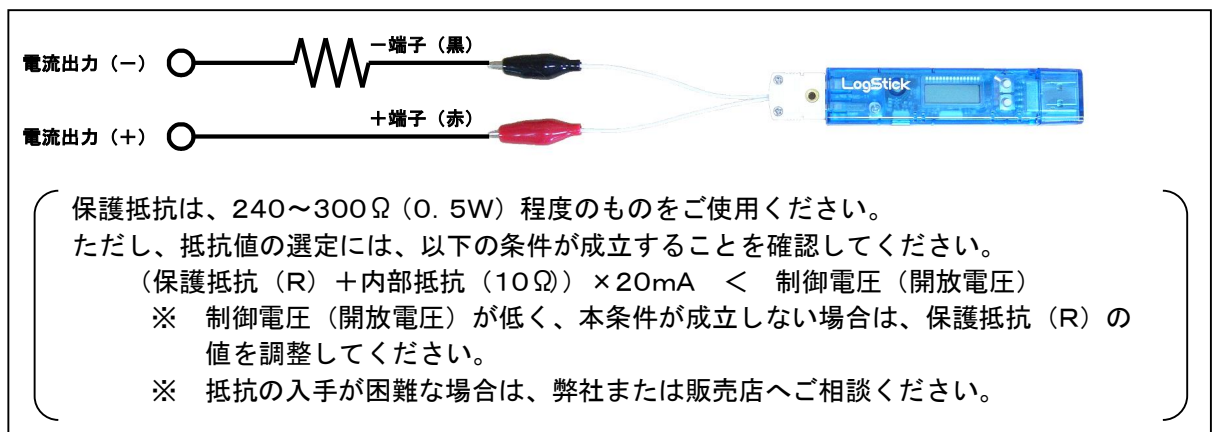


図2 定電流信号源（4～20mA）における保護抵抗

5 アプリケーションソフトによる操作方法

3項にてインストールを行ったLogStick用アプリケーションソフトを実行します。

5.1 通信

LogStickをパソコンのUSBポートへ接続することにより自動的に認識されます。
認識を行うと「LogStick操作パネル」ダイアログへ現在の設定状態が表示されます。



5.2 各種設定

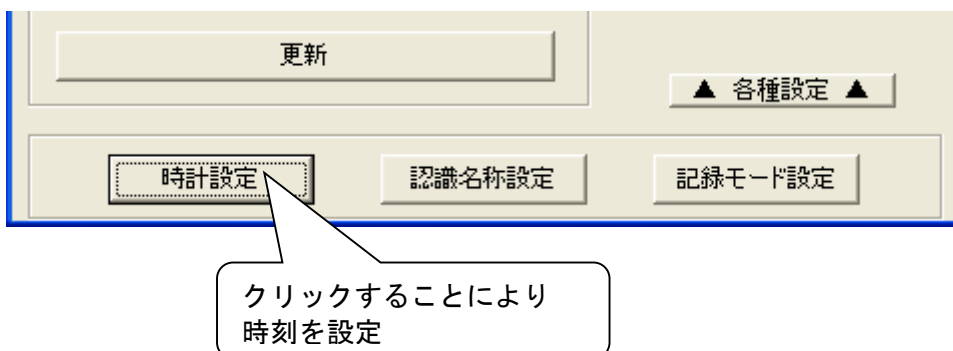
“▼ 各種設定 ▼” ボタンをクリックすることにより、内部時計、認識名称、記録モードの設定ができます。

5.2.1 時計設定

クリックすることによりパソコン内部の時刻を本体内部の時刻として設定します。

注意

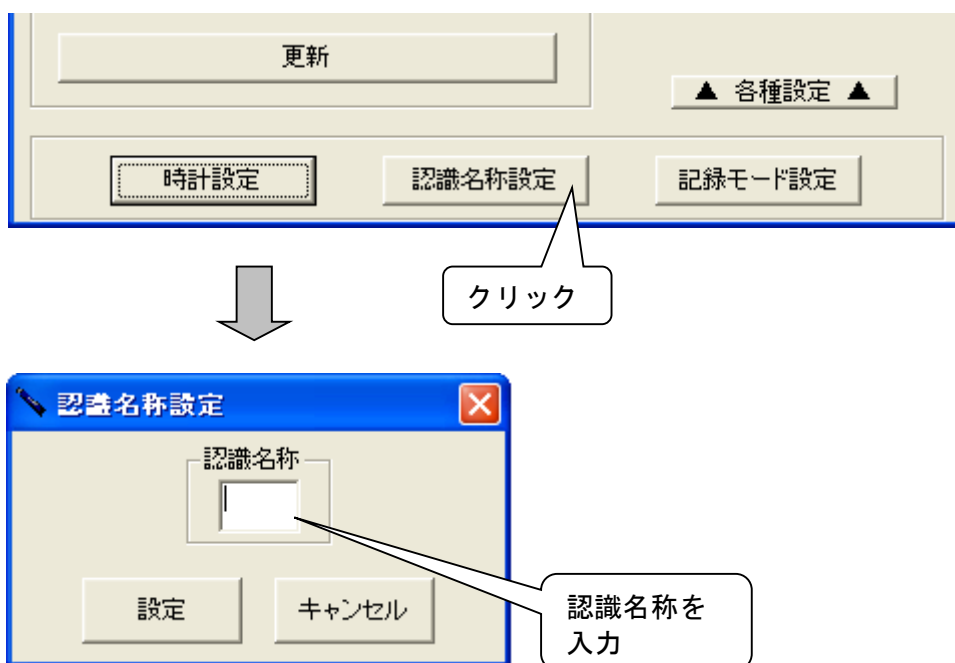
パソコンを利用してログ記録の開始を行う場合は、本設定を行わなくても自動的に時刻を再設定しますので本設定を行う必要はありません。



5.2.2 認識名称設定

クリックすることにより「認識名称設定」ダイアログが開き認識名称を設定することができます。

認識名称は半角4文字まで記入でき、測定機器等の認識用としてご利用いただけます。



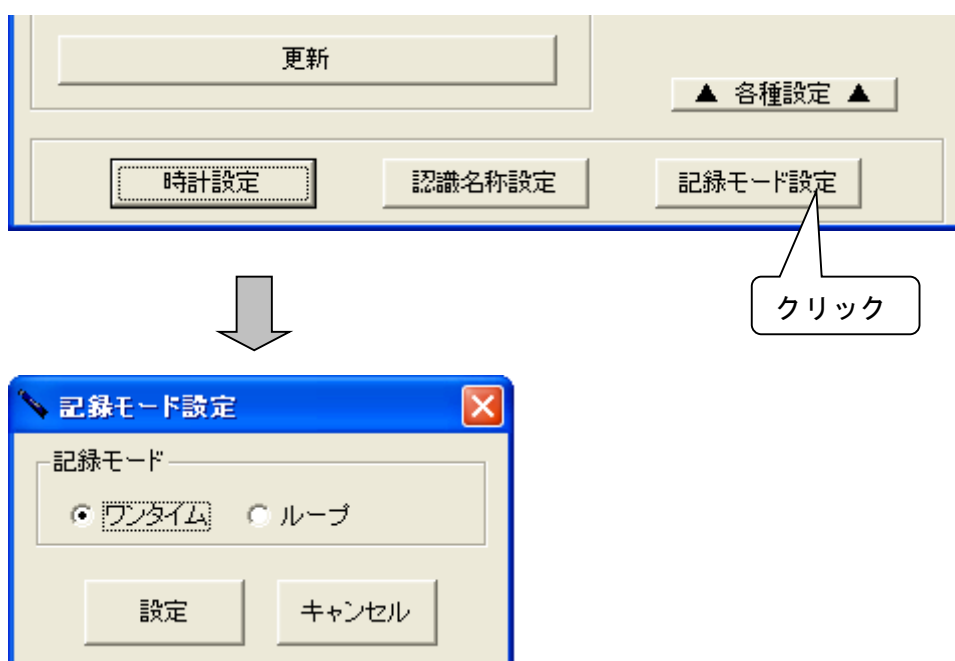
5.2.3 記録モード設定

クリックすることにより「記録モード設定」ダイアログが表示され記録のモードを設定することができます。

記録モードとは記録中に最大記録数となった場合の本体動作を表します。

ワンタイム：記録数が30000になると自動的に記録を終了します。

ループ：記録数が30000を超えても一番古いデータから上書きし記録を続けます（最大4ループ）。



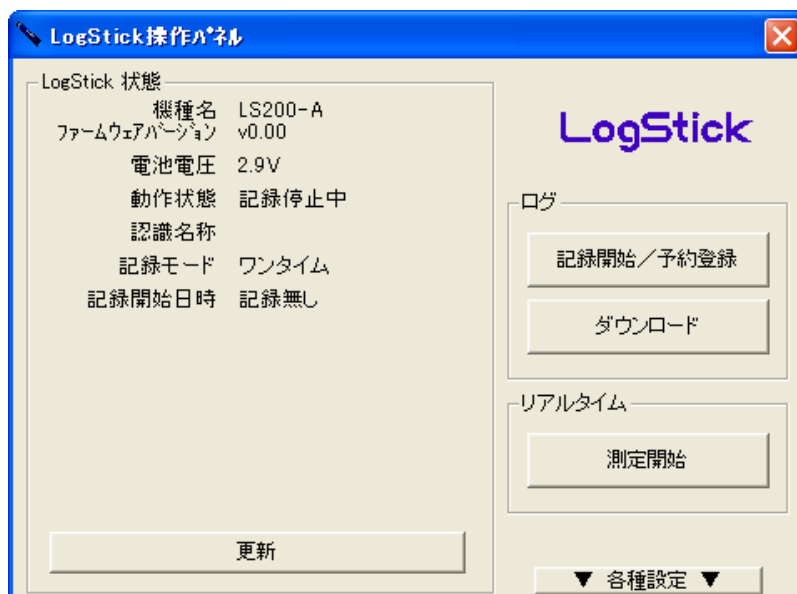
5.3 ログ記録

ログ記録の特徴は以下のとおりです。

- ・ 設定した記録間隔にて測定した電流データを内部メモリに記録
- ・ 記録間隔を 1 秒～59 秒、1 分～240 分で設定可能。
- ・ 記録開始日時を一ヶ月先まで予約可能。
- ・ メモリーへの記録をワンタイムモードかループモードで選択可能。
 - ワンタイムモード：記録数が30000点になると記録を終了します。
 - ループモード：記録数が30000点を超えると一番古いデータから上書きし最大4ループ（120000点）まで記録を続けます。

5.3.1 操作パネル

“更新” をクリックすることにより現在の設定状態を確認できます。



確認できる項目は以下の通りです。

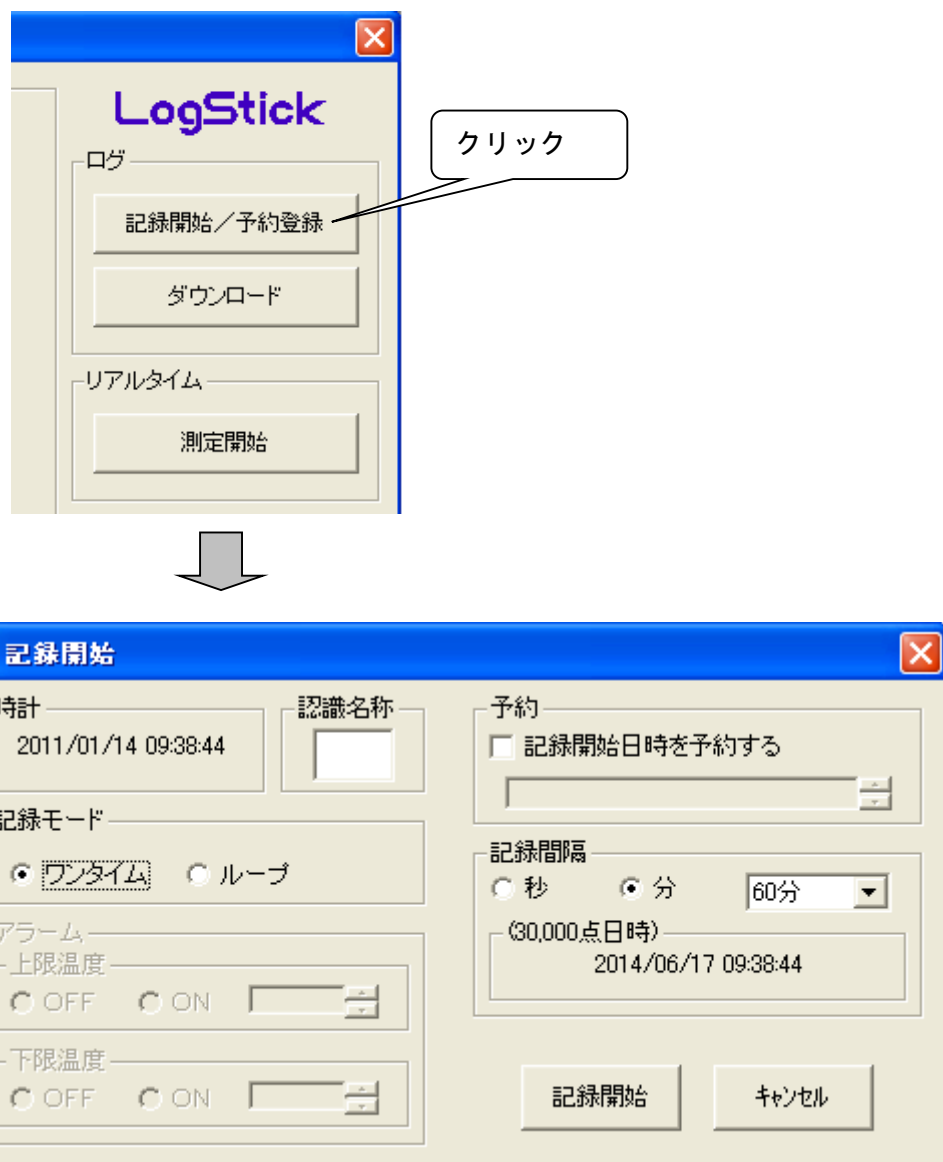
機種名	： 接続されている機器の機種名（LS200-A）
ファームウェアバージョン	： LogStickのソフトウェアバージョン
電池電圧	： 搭載されている電池の電圧
動作状態	： LogStickの動作状態 （記録停止中、記録中、予約登録中）
認識名称	： LogStickに設定されている認識名称
記録モード	： LogStickに設定されている記録モード （ワンタイム、ループ）
記録開始日時	： LogStickにて記録を開始した日時
先頭記録日時	： LogStickにて記録されている最初のデータの日時
最終記録日時	： LogStickにて記録を終了した日時

注意

- ・ 電池電圧の表示は目安です。長期のログ記録の前にはあらかじめ電池の交換を行ってください。
- ・ 電池電圧が2.7V以下になるとログ記録の操作はできなくなります。

5.3.2 記録開始

“記録開始”をクリックすると「記録開始」ダイアログが表示されます。



認識名称、記録モード、記録間隔を設定します。

開始時間を予約する場合は“記録開始日時を予約する”にチェックを入れ、日時を設定してください。

全ての設定が済んだ後、“記録開始”をクリックしてください。

注意

- ・ “記録開始”を行いますと以前のデータは消去されます。
- ・ 長期のログ記録の前にはあらかじめ電池の交換を行ってください。
- ・ “記録開始”の場合、最初の記録データは記録間隔で設定した時間経過後になります。
- ・ “予約登録”の場合、最初の記録データは予約を行った記録開始日時になります。

各項目の説明

- ・ 時計

パソコンの現在時刻が表示されています。

LogStick内の時計が表示されている時刻へ再設定しますので、実際と異なる場合は、パソコンの時刻を再設定してください。

- ・ 認識名称

半角4文字までの文字列を記入します。

複数のLogStickの管理や、測定場所の認識としてご利用いただけます。

- ・ 記録モード

ワンタイム：記録数が30000になると記録を終了します。

ループ：記録数が30000を超えても一番古いデータから上書きし記録を続けます（最大4ループ）。

- ・ 記録間隔

記録間隔を設定します。

（30000点日時）：現在の設定で記録開始した場合に30000点を記録できるまでの時刻を表示

- ・ 予約

記録を開始する日時を設定します。

5.3.3 記録終了／予約取消

〔LogStick操作パネル〕ダイアログの“記録を停止しダウンロード”（予約動作中の場合は“予約登録を取消”）をクリックします。



注意

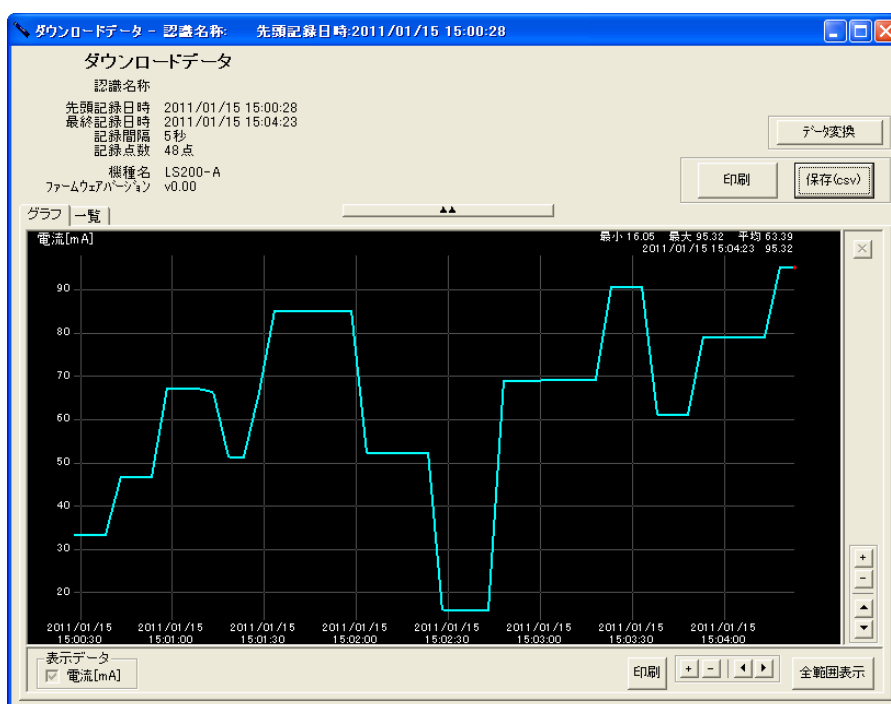
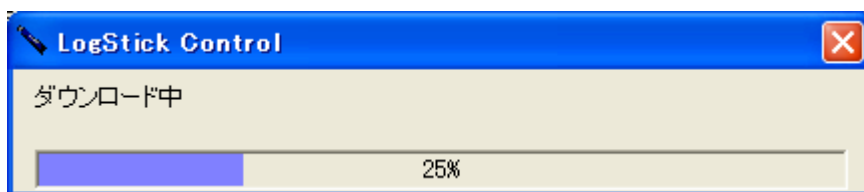
- ・ 記録終了を行った場合は自動的に記録データがダウンロードされます。

5.3.4 ダウンロード

[LogStick操作パネル] ダイアログの“ダウンロード”をクリックすることにより記録されている電流データがパソコンに転送されます。
パソコンへの転送が終了するとグラフが表示されます。

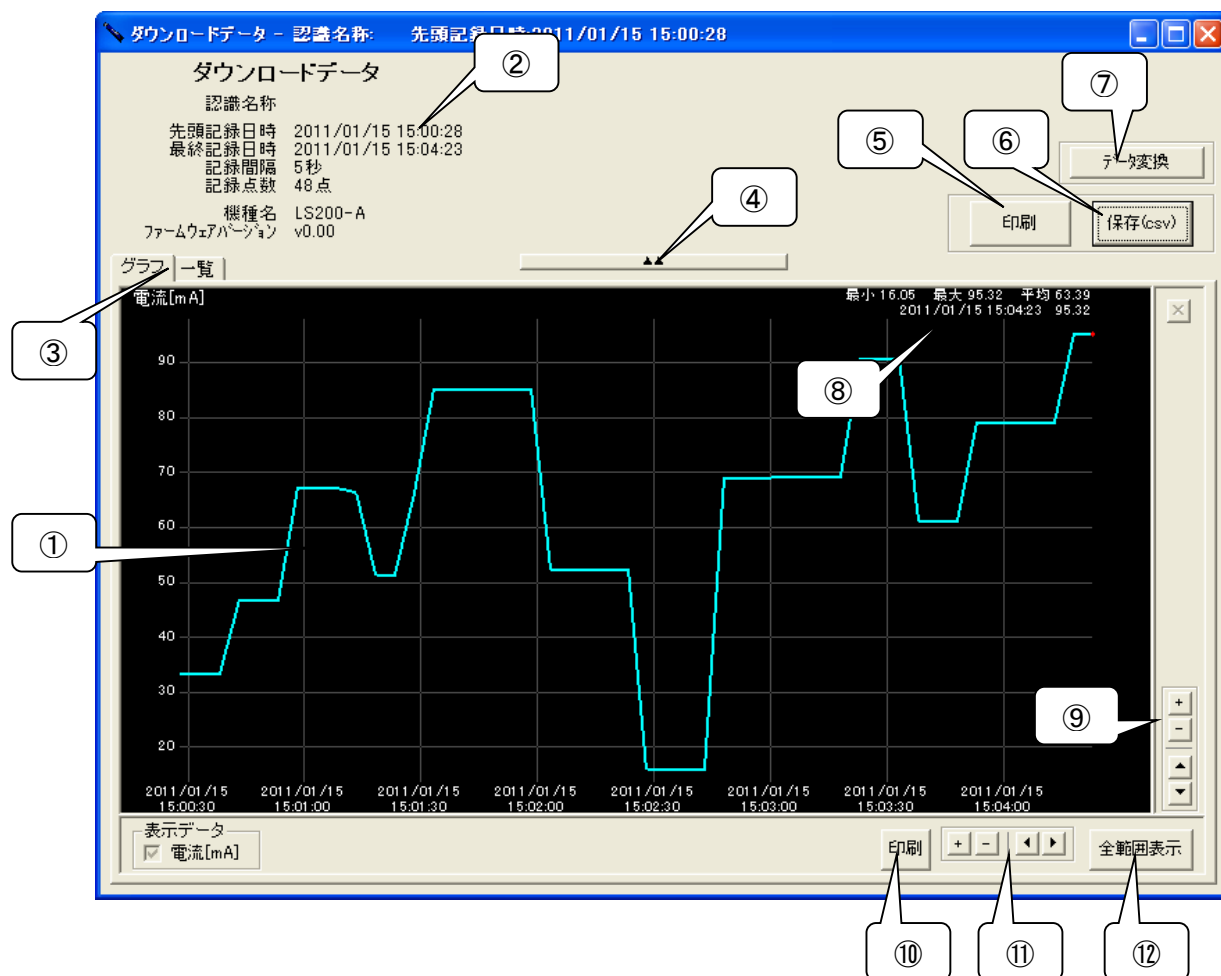
注意

- ・ダウンロード中は他の操作を行わないでください



5.3.5 ダウンロードデータ表示（グラフ）

ダウンロードデータのグラフ表示には次のような機能が存在します。



① データ表示画面（グラフ）

測定データのグラフが表示されます。

表示したい部分をカーソルにて囲むことにより、拡大が可能となります。

注意

カーソルでの拡大を行う場合、可能な範囲を越えると選択範囲が赤くなり拡大は行えません。

② 情報画面

表示されているグラフの測定情報が表示されます。

③ グラフ／一覧表示切り替え

データ表示画面の表示方法を切り替えます（グラフ／一覧）。

④ 情報画面表示切り替え

情報画面の表示／非表示を切り替えます。

グラフの比較など非表示にすることにより比較が容易になります。

- ⑤ 印刷
データの印刷を行います。
- 注意

プリンターの機種により正常に印刷できない場合があります。
- ⑥ 保存
記録データをCSVファイルとして保存します（詳細は4.5 データの保存参照）
- ⑦ データ変換
電流データを任意の単位へとスケール変換が行えます（詳細は4.7 データ変換参照）
- ⑧ 表示データ簡易情報
グラフ表示されている範囲の「最大値」「最小値」「平均値」が表示されます。
また、カーソルをグラフに合わせることで、カーソル位置の詳細情報が表示されます。
- ⑨ 拡大・縮小／移動（データ範囲）
表示されているグラフの拡大縮小／移動が行えます。
- ⑩ 印刷
⑤印刷と同等
- ⑪ 拡大・縮小／移動（時間軸）
表示されているグラフの拡大・縮小／移動が行えます。
- ⑫ 全画面表示
グラフの表示範囲を全画面表示にします。

5.3.6 ダウンロードデータ表示（一覧）

ダウンロードデータを数値として一覧表示することが可能です。

ダウンロードデータ 認識名称: 先頭記録日時:2011/01/15 15:00:28

ダウンロードデータ

認識名称

先頭記録日時 2011/01/15 15:00:28
最終記録日時 2011/01/15 15:04:23
記録間隔 5秒
記録点数 48点

機種名 LS200-A
ファームウェアバージョン v0.00

データ変換

印刷 保存(csv)

グラフ 一覧

ノ	番号	日時	電流[mA]	備考
1		2011/01/15 15:00:28	33.51	
2		2011/01/15 15:00:33	33.44	
3		2011/01/15 15:00:38	33.44	
4		2011/01/15 15:00:43	46.80	
5		2011/01/15 15:00:48	46.80	
6		2011/01/15 15:00:53	46.80	
7		2011/01/15 15:00:58	67.31	
8		2011/01/15 15:01:03	67.30	
9		2011/01/15 15:01:08	67.33	
10		2011/01/15 15:01:13	66.49	
11		2011/01/15 15:01:18	51.49	
12		2011/01/15 15:01:23	51.48	
13		2011/01/15 15:01:28	66.40	
14		2011/01/15 15:01:33	85.17	
15		2011/01/15 15:01:38	85.16	
16		2011/01/15 15:01:43	85.17	
17		2011/01/15 15:01:48	85.16	
18		2011/01/15 15:01:53	85.18	
19		2011/01/15 15:01:58	85.18	
20		2011/01/15 15:02:03	52.36	
21		2011/01/15 15:02:08	52.31	
22		2011/01/15 15:02:13	52.33	
23		2011/01/15 15:02:18	52.44	
24		2011/01/15 15:02:23	52.52	
25		2011/01/15 15:02:28	16.05	
26		2011/01/15 15:02:33	16.08	
27		2011/01/15 15:02:38	16.09	
28		2011/01/15 15:02:43	16.10	
29		2011/01/15 15:02:48	69.11	
30		2011/01/15 15:02:53	69.11	
31		2011/01/15 15:02:58	69.09	

5.4 リアルタイム測定

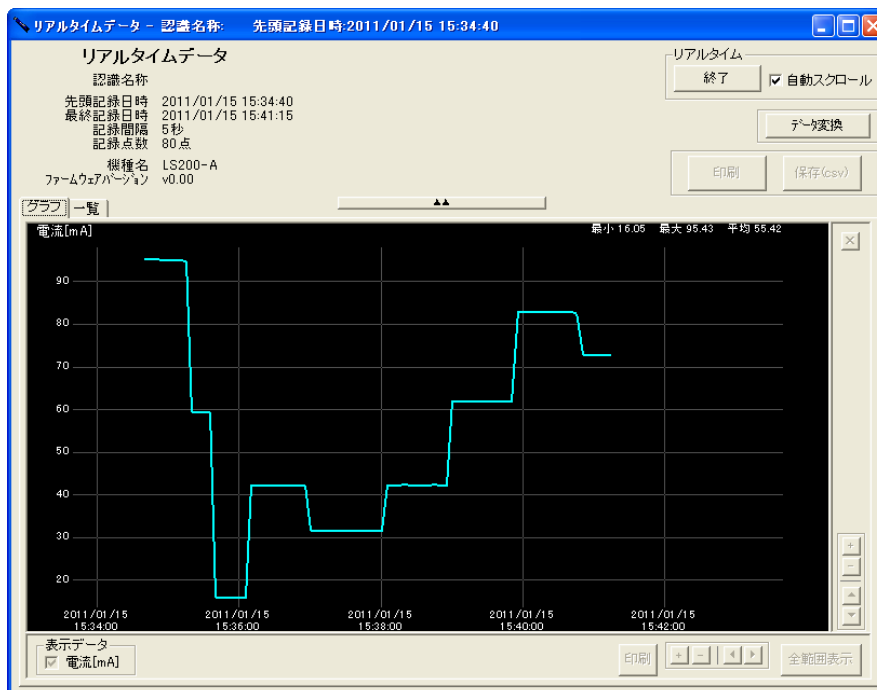
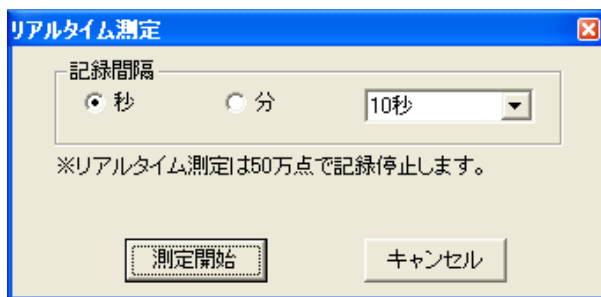
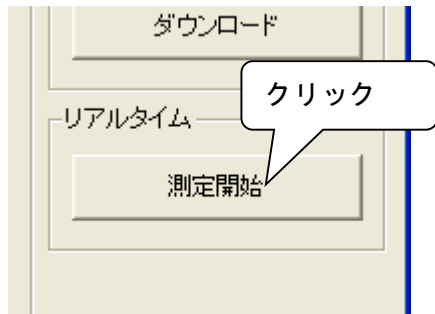
リアルタイム測定の特徴は以下のとおりです。

- ・ パソコンに接続した状態で現在の電流を常時測定
- ・ 測定間隔を 1 秒～5 9 秒、1 分～2 4 0 分で設定可能

5.4.1 測定方法

LogStickをパソコンに接続し、リアルタイムの“測定開始”をクリックしてください。

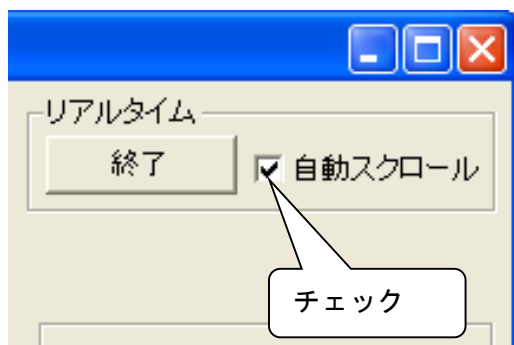
［リアルタイム測定］ダイアログが表示されますので、測定間隔を設定し“測定開始”をクリックすることにより測定が開始されます。



5.4.2 自動スクロール

“自動スクロール”のチェックボックスにチェックしますと常に最新のデータが表示されるようスクロールを行います。

自動スクロール中はグラフの拡大縮小等の編集はできませんので、その場合は、“自動スクロール”をOFFにする必要があります。



5.5 データの保存

記録したデータをCSV形式のファイルに保存できます。

“保存”をクリックすることによりファイル保存ダイアログが表示され任意のフォルダへ保存することが可能になります。

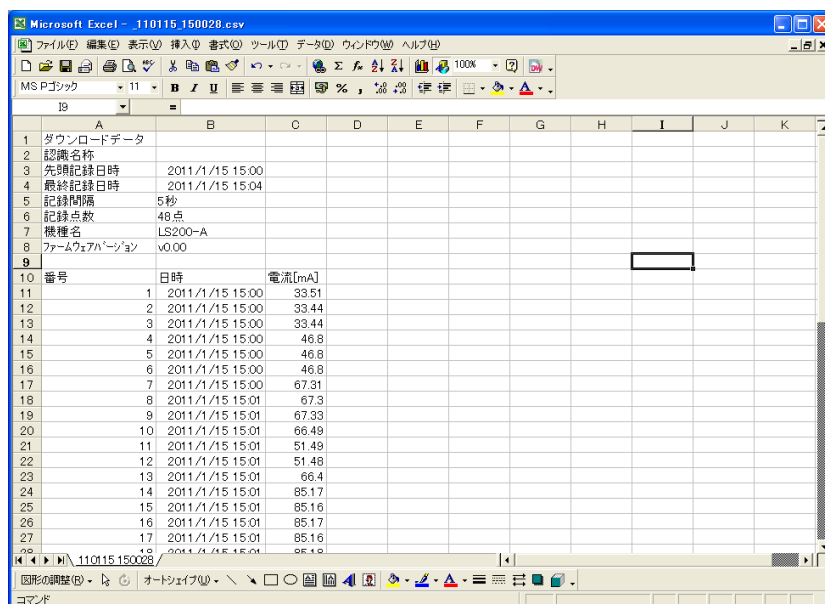
尚、保存されるファイル名は初期値では以下のようにになっています。

(例) LOG1_110701_150000.csv
① ② ③

- ① 認識名称 (例) LOG1
- ② 記録開始日 (例) 2011年7月1日
- ③ 記録開始時 (例) 15時00分00秒

5.5.1 保存データの閲覧

保存したファイルはメモ帳、Excel等表計算ソフトで閲覧できます



番号	日時	電流[mA]
1	2011/1/15 15:00	33.51
2	2011/1/15 15:00	33.44
3	2011/1/15 15:00	33.44
4	2011/1/15 15:00	46.8
5	2011/1/15 15:00	46.8
6	2011/1/15 15:00	46.8
7	2011/1/15 15:00	67.31
8	2011/1/15 15:01	67.3
9	2011/1/15 15:01	67.33
10	2011/1/15 15:01	66.49
11	2011/1/15 15:01	51.49
12	2011/1/15 15:01	51.48
13	2011/1/15 15:01	66.4
14	2011/1/15 15:01	85.17
15	2011/1/15 15:01	85.16
16	2011/1/15 15:01	85.17
17	2011/1/15 15:01	85.16

注意

- ・ご使用の表計算ソフトによっては時刻やデータが省略されることがあります。その場合、表計算ソフトの設定を変更し、表示してください。

例：Excel2003で秒を表示の場合

書式>セル>表示形式>時刻で秒表示に設定してください

5.6 保存データの読み込み

保存しておいたデータファイルを読み込みます。

読み込みの方法としては以下の2通りの方法があります。

方法1

メニューバーより、ファイル>データファイルを開く を実行し、読み込みを行う

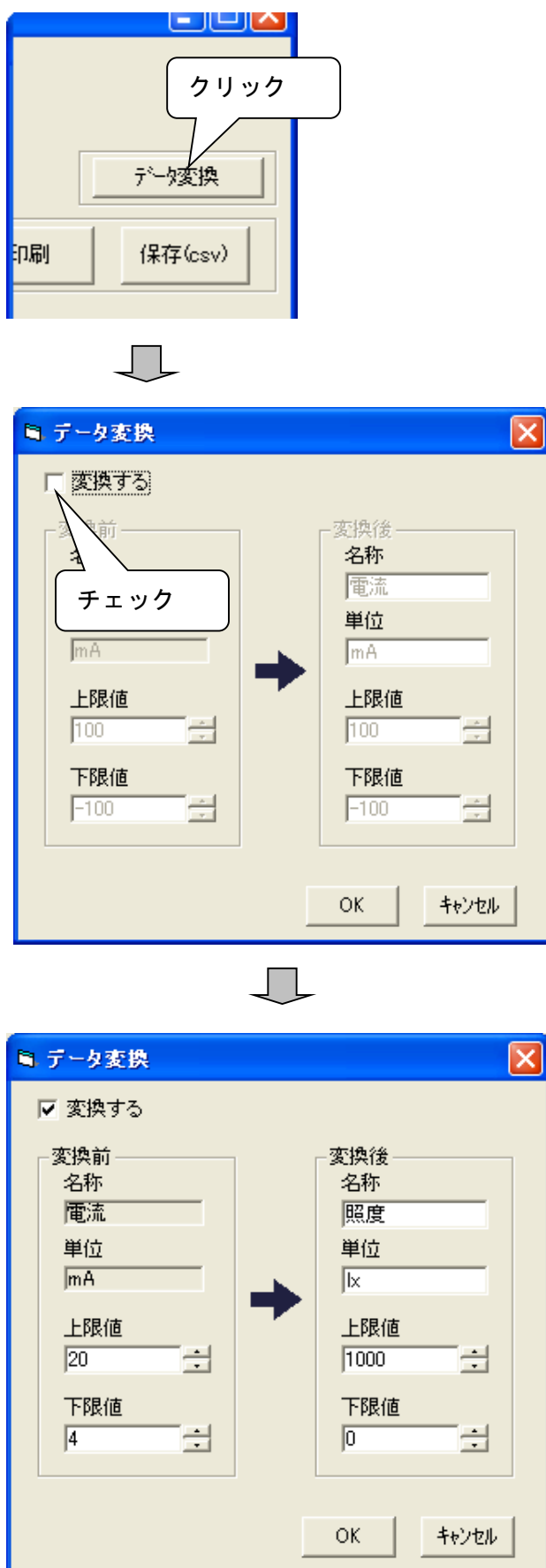
方法2

ファイルをLogStickControl上へ、ドラッグ アンド ドロップを行う

5.7 データ変換

記録した電流を任意の単位へとスケール変換できます。

データ表示画面（グラフ、一覧）にて“データ変換”をクリックすることにより、スケール範囲を設定できます。



各項目の説明

- ・ 上限値（変換前）／下限値（変換前）
測定電流の上限値／下限値を入力します。
例えば、測定するセンサーの出力電流が4～20[mA]の場合、上限値に「4」、下限値に「20」を入力します。
- ・ 名称
変換後の単位名称を入します。
入力した文字列はグラフ等の単位名称として使用されますが、データ変換への影響はありません。
- ・ 単位
変換後の単位を入します。
入力した単位はグラフ等の単位として使用されますが、データ変換への影響はありません。
- ・ 上限値（変換後）／下限値（変換後）
変換前の上限値（下限値）が、変換後、いくらに相当するかを入力します。
例えば、測定するセンサーの出力電流の上限値が20[mA]で、その値が照度1000[lx]に相当する場合、上限値に「1000」を入力します。

注意

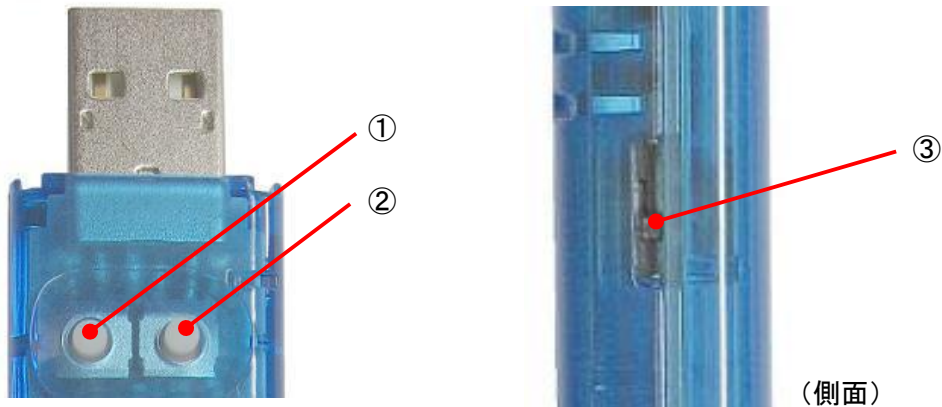
- ・ データ変換を行い保存されたデータは、再び変換を行うことができません。
再びデータ変換を行う場合は、変換前の元データも一緒に保存してください。

6 本体による操作方法

本体に搭載されているスイッチにより、電流の確認及び記録開始設定が行えます。

6.1 スwitchの名称

操作に使用するスイッチは以下の通りです。



- ①モードSW : 設定、及び状態確認に使用します。
- ②設定SW : 設定に使用します。
- ③表示確認SW : USBコネクタ側に移動させることによりLCDにて電流（非記録時）又は記録点数（記録時）の確認が可能となります。

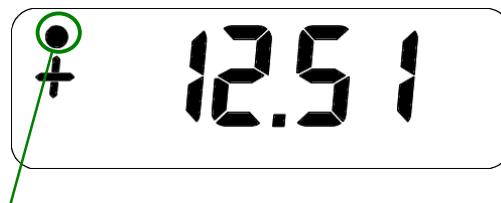
注意

- ・LCDを常時点灯としますと電池容量が急激に消耗しますので通常は必ず「消灯」にてご使用ください。

6.2 電流の確認

モードスイッチを押すことにより電流の確認が可能になります（パソコン接続中は除く）
尚、表示される電流は本体の状態により下記の通りとなります。

- ・記録動作なし . . . 現在の電流が表示されます。
- ・記録動作中 . . . 最後に記録した電流が表示されます。
また記録中はLCDに記録動作中を表すマークが表示されます。



- 消灯 : 記録動作なし
- 点灯 : 記録動作中

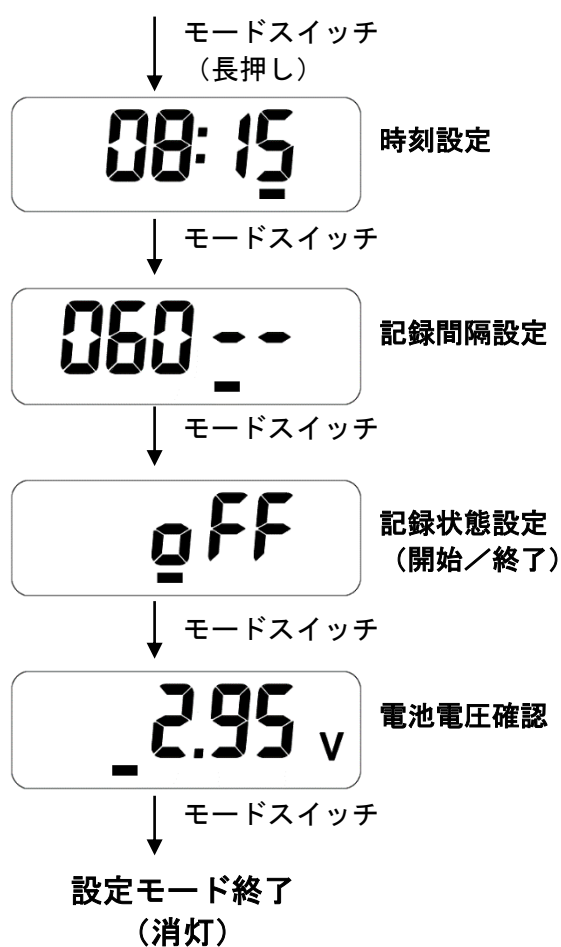
注意

- ・LCDに表示される電流と実際に記録されている電流は数値が異なる場合があります。これはLCD表示は簡易演算により求めているための誤差であり、記録値がより正確な値になります。

6.3 設定モード

モードスイッチを長押しすることにより、設定モードとなります。

設定モードでは、モードスイッチを押す毎に、時刻設定→記録間隔設定→記録の開始／終了設定→電池電圧確認と変化します。



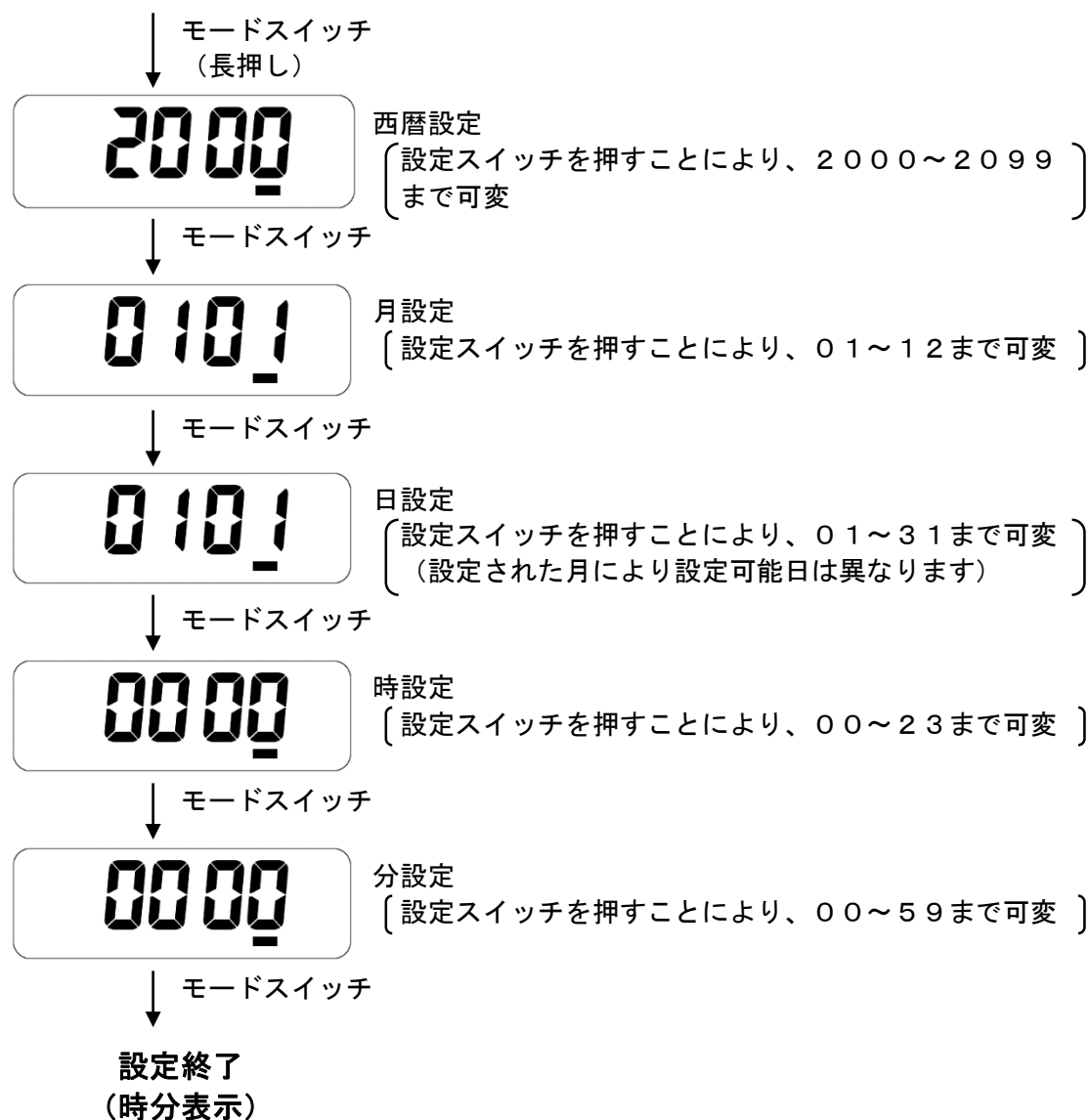
注意

- ・ 設定モード中では10秒間の操作がなかった場合、自動的に終了します。
- ・ パソコンへ接続中はスイッチによる操作はできません。

6.4 時刻設定

時刻設定の項目でモードスイッチを長押しすることにより、現在の時刻を設定することが可能になります。

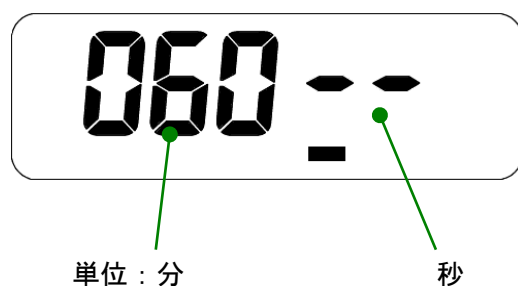
設定動作では、設定スイッチを押す毎に設定値が可変し、モードスイッチを押す毎に西暦→月→日→時→分と設定項目が変化します。



6.5 記録間隔設定

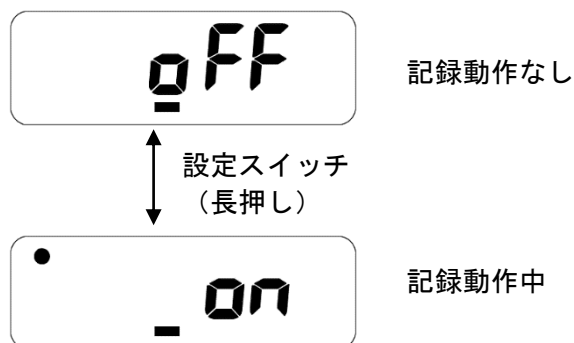
記録間隔設定の項目でモードスイッチを長押しすることにより、記録を行う時の間隔を設定することが可能になります。

設定動作では、設定スイッチを押す毎に設定値が可変し、左側が「分」右側が「秒」を表します。



6.6 記録状態設定

記録状態設定の項目で設定スイッチを長押しすることにより、記録の開始／終了を行うことが可能になります。

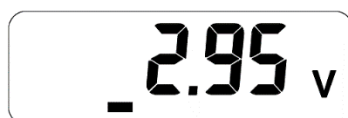


注意

記録状態の変更は誤操作防止のため、設定スイッチの長押しで操作を行います。

6.7 電池電圧確認

電池の電圧が表示されます。



注意

- ・電池電圧の表示は目安です。長期のログ記録の前にはあらかじめ電池の交換を行ってください。
- ・電池電圧が2.7V以下になるとログ記録の操作はできなくなります。

6.8 LCD常時表示

表示確認SWをUSBコネクタ側に移動させることによりLCDにて電流又は記録点数の確認が可能となります。

尚、状態により表示される項目は以下のようになります。

◆ 記録・予約なし



現在の電流が表示されます。
(10秒更新)

◆ 記録中



記録中のマークが表示され、記録した点数が表示されます。

◆ 予約中



記録中のマークが表示され、全て「-」が表示されます。

注意

- ・LCDを常時点灯としますと電池容量が急激に消耗しますので通常は必ず「消灯」にてご使用ください。

7 仕様

製品仕様	
測定仕様	D C 電流 (単位mA)
チャンネル数	1 c h
測定可能範囲	0 ~ 1 0 0 . 0 0 mA
分解能	0 . 0 0 4 mA
測定精度	± 1 % r d g + 5 d g t
記録容量	最大 3 0 0 0 0 点
測定間隔	1 秒 ~ 5 9 秒 (1 秒単位)、1 分 ~ 2 4 0 分 (1 分単位)
動作温度	+ 5 ~ + 4 0 °C
インターフェース	U S B
時計機能	内蔵
使用電池	C R 1 2 2 0、C R 1 2 2 5 (交換可能)
電池寿命 注 2 (CR1220使用時)	1 年間 (測定間隔 = 1 時間, L C D 非表示)
	4 5 日間 (測定間隔 = 1 分間, L C D 非表示)
	7 日間 (測定間隔 = 1 0 秒間, L C D 非表示)
	7 日間 (測定なし, L C D 常時表示)
液晶仕様	反射型 T N
計測用プローブ仕様	
プローブ形状	クリップ (赤, 黒)
接続コネクタ	オメガ社 S M P W - U - M
ケーブル長	1 0 c m
寸法	
9 5 . 0 (W) × 1 0 . 4 (H) × 2 1 . 0 (D) (mm)	
重量	
約 2 1 g (電池・測定用プローブの重量は含まず)	
対応 OS (パソコン制御ソフトは無償配布)	
W i n d o w s 7 (3 2 / 6 4 ビット)、W i n d o w s 8 / 8 . 1 (3 2 / 6 4 ビット) W i n d o w s 1 0 (3 2 / 6 4 ビット)	
付属品	
<ul style="list-style-type: none"> ・ C R 1 2 2 0 テスト用ボタン電池 (本体に装着) ・ 測定用プローブ ・ 本体用保管袋 ・ ご使用にあたって (保証書付) 	

注 1 電池寿命は目安です。リチウム電池は高温及び低温化では著しく性能が低下します。そのため、電池寿命は実際に使用する電池の性能、使用する環境により大きく変動することがあります。また、記録間隔により電池寿命が記録容量を上回りますので、終了時を考慮した間隔でご使用ください。